

HIKONE CASTLE 彦根城

彦根城は、関ヶ原の合戦後、彦根藩初代藩主 井伊直政の嫡子・直継と二代藩主・直孝によって約 20 年の歳月をかけ築城されました。白亜三層の天守は、今もなお気高い雄姿を誇り、姫路城、松本城、犬山城とならび国宝四城のひとつに数えられています。城内には国宝の天守のほか、天秤櫓や太鼓門櫓、西の丸三重櫓など重要文化財を一般公開しております。桜、新緑、紅葉、雪景色など四季折々の情緒を感じさせてくれます。

彦根城是彦根藩井伊家的居城。它是在关之原战役之后，由第一代藩主井伊直政之子直継和第二代藩主井伊直孝花了 20 年的时间修建而成的。白色三层的天守，至今威风凛凛，令人肃然起敬。彦根城与姬路城、松本城、犬山城被称为国宝四城。

彦根城内除了国宝天守以外，天平望楼、鼓楼和西之丸三重櫓等重要文化遗产也对外进行展示。根据不同的季节，彦根城可以让游人感受到樱花、新绿、红叶、雪景等四季各种不同的气息。

○時間 / 8:30~17:00(無休)天守観覧は 17:30 まで
※城内の聴鐘庵の抹茶席(有料)は、16:00 まで

○开放时间/8:30~17:00(全年无休)天守的开放时间为 17:30 为止

※彦根城内的「日式茶座」听钟庵(收费)到下午 16:00 为止

○観覧料 / □彦根城・玄宮園 / 一般(大人)600 円、小中学生 200 円
□彦根城博物館とのセット券 / 一般(大人)1,000 円、
小中学生 350 円

○门票 / □彦根城・玄宮園 / 成人 600 日元、小中学生 200 日元

□彦根城和彦根城博物館的套票 / 成人 1000 日元、小中学生 350 日元

○お問い合わせ /

彦根市観光振興課 0749-30-6120
彦根城管理事務所 0749-22-2742

○咨询电话 /

彦根市観光振興科 0749-30-6120

彦根城管理事務所 0749-22-2742

GENKYU-EN(CASTLE GARDEN) 玄宮園

四代藩主・直興によって造営された池泉回遊式の大名庭園で、中国唐時代の玄宗皇帝の離宮になぞらえて造られています。国宝の天守を背景に、四季折々の風情があり、特に秋の紅葉は素晴らしく、風雅な雰囲気漂います。なお、隣接する楽々園(下屋敷、保存整備中)とともに、名勝指定を受けています。

由井伊家的第四代藩主井伊直兴修建而成的泉池回游式大名庭园-玄宮園，是模仿中国唐代玄宗皇帝的离宫而建造而成的。以国宝天守为背景，四季的风景各有千秋，特别值得一提的是秋季的红叶，使周围散发着优雅的气息。与玄宮園相邻的乐园(别墅-为保存正在修复)，也被认定为名胜古迹。

- 時 間 / 8:30~17:00(無休)園内観覧は17:30まで
- ※園内の鳳翔台の抹茶席(有料)は、16:00まで
- 観覧料 / 彦根城と共通 / 一般(大人)600円、小中学生 200円
- 観覧料 / 一般(大人)200円、小中学生 100円

○开放时间/8:30~17:00 (全年无休) 园内的参观到下午 17:30 为止

※园内凤翔台的抹茶服务(收费)到下午 16:00 为止

○门票/玄宫园与彦根城的套票/成人 600 日元、小中学生 200 日元

门票/成人 200 日元、小中学生 100 日元

- お問い合わせ /
- 彦根市観光振興課 0749-30-6120
- 彦根城管理事務所 0749-22-2742

○问询电话/

彦根市観光振興科 0749-30-6120

彦根城管理事務所 0749-22-3742

※9 月中開催の「玄宮園で虫の音を聞く会」、および 11 月中旬から下旬開催の「錦秋の玄宮園ライトアップ」の夜間イベントには、別途入園料が必要となります。両イベントの問合せは、(社)彦根観光協会(0749-23-0001)までお願いいたします。

※如果想参加 9 月中旬在玄宫园举办的「听虫鸣会」, 以及在玄宫园从 11 月中旬到 11 月下旬举办的「锦秋灯会」等夜间活动的话, 需要购买夜间门票。咨询以上两个活动的具体事宜的话, 请与(社)彦根観光協会(0749-23-0001)进行联系。

彦根城博物館 彦根城博物館

彦根藩の政庁であった表御殿を復元した建物で、彦根藩歴代藩主であった井伊家伝来の美術工芸品や古文書など約 65,000 点を収蔵しています。

在经过复原的彦根藩中央政府的官厅建筑物中, 收藏并展出彦根藩井伊家历代藩主祖传的美术工艺品以及古文书籍等历史文物约 6 万 5 千件之多。

- 時 間 / 8:30~17:00(入館は 16:30 まで)
- 开放时间/8:30~17:00 (入馆到下午 16:30 为止)
- 入館料 / 大人 500 円
- 小中学生 250 円
- 门票 / 成人 500 日元
- 小中学生 250 日元

○休館日 / 12/25~31、資料整理期間(7 月中旬)

○休馆日 / 12/25~31、资料整理日期(7 月中旬)

○お問い合わせ／0749-22-6100

○问询电话／0749-22-6100

夢京橋キャッスルロード 夢京橋城之路

江戸時代の町並みを再生した「夢京橋キャッスルロード」。全ての建物が切妻屋根の町屋風に統一され、いぶし瓦・白壁・格子戸など江戸時代の雰囲気漂う食事処や土産物屋が軒を連ねます。

夢京橋城之路重现了江戸时代的城下町。所有的房屋接轩而立，白壁灰瓦并且配有独特的黑格子窗，充分体现了江戸时代的建筑风格。各个富有个性化的餐厅及土特产店铺鳞次栉比。

夢京橋あかり館 夢京橋彩灯馆

夢京橋キャッスルロードにあるあかりのテーマ館。1階は彦根の伝統産業であった和ろうそくやキャンドルを中心とした販売スペースと手作りキャンドルの体験工房、2階は、「彦根まちなか博物館」として郷土玩具を中心としたコレクションを展示しています。

彩灯馆是位于夢京橋城之路的专题馆。一层不仅以彦根的传统工艺—和式蜡烛为中心进行贩卖，还另外设有蜡烛制作体验工房，二层作为「彦根城下町博物館」，展示着各种乡土玩具。

○時間 / 9:30~17:30

○开放时间 / 9:30~17:30

○観覧料(2Fのみ) / 大人 200円
小中学生 100円

○门票(2层) / 成人 200日元 中小学生 100日元

○休館日 / 火曜日(火曜日が祝日の場合は翌日)

○休息日/星期二(如果星期二为法定节假日时，休息日改为第二天)

○お問い合わせ／0749-27-5501

○问询电话／0749-27-5501

・[夢京橋あかり館ホームページはこちら](#) (夢京橋彩灯馆的主页请点击此处)

四番町スクエア 四番町方形广场

大正10年に公設市場として開設された市場商店街が「大正ロマン溢れるまち」をコンセプトに「四番町スクエア」として生まれ変わりました。「ひこね食寮館 四番町ダイニング」を中心に、「食」に関するお店が集まっています

大正10年(1921年)，政府公开开设的市场商店街以「充满着大正时代氛围的浪漫街道」为理念，得到新生的就是现在的四番町方形广场。以「彦根食府四番町餐厅」为核心，汇集了相关的饮食店。

俳遊館 俳游馆

夢京橋キャッスルロードから路地を歩いていくと俳句のテーマ館「彦根みちくさ処」俳遊館があります。外観は、大正13年に建てられたレトロな建物で、中では「彦根八景」の紹介や彦根の歳時記を詠んだ俳句などを展示しています。

漫步于夢京橋城之路，会发现有一处把彦根的风土人情以俳句的形式加以介绍的消遣场所—俳游馆。它修建于大正13年(1924年)，是一座颇具怀古氛围的建筑物。俳游馆中有对「彦根著名八景」的介绍。除此之外，还展示着旅行者来彦根旅行的感想—以一句吟咏的俳句形式。

○時間 / 9:00~17:00

○开放时间 / 9:00~17:00

○入館料 / 無料

○无须门票

○休館日 / 火曜日

12/29~1/3

○休息日 / 毎星期二 和 12/29~1/3

○お問い合わせ / 0749-22-6849

○咨询电话 / 0749-22-6849

埋木舎 埋木舎

開国の父・井伊直弼が不遇の青年時代を過ごした屋敷。十一代藩主・直中の十四男として生まれた直弼は、300 俵の捨扶持で、17 歳から 32 歳まで、この屋敷で過ごし、「世の中をよそに見つとも埋もれ木の埋れておらむ心なき身は」という和歌を詠み、自らこの屋敷を「埋木舎」と名づけました。将来に夢も希望もない身ではありましたが、直弼はこの時期に文武両道の修練に励み、後に大老として、日本を開国へ導くまでになったのです。

埋木舎は日本の開国之父-井伊直弼在不遇的青年时代所居住过的地方。井伊直弼是第十一代藩主井伊直中の第 14 个儿子。他携着 300 俵的财产（约 100 万-160 万日元），从 17 岁到 32 岁的 15 年都是在这里度过的。「世の中をよそに見つとも埋もれ木の埋れておらむ心なき身は」（这是他所作的和歌，大概意思为：「井伊直弼把自己比作是林海中的一棵不起眼的树，虽然被遗忘不被重视，但是自己在这种逆境中仍然保持积极进取的心态」）。井伊直弼把自己居住的地方命名为「埋木之舎」。当时的境遇使得井伊直弼对自己的将来没有抱有任何的希望与梦想，但是他仍然坚持文武两道的修练。后来，他成为德川幕府的大老（最高官职），主张开放国家，对外通商。

○時間 / 9:00~16:30(冬期は、15:30 までとなります。)

○开放时间 / 9:00~16:30(冬季到下午 15:30)

○入館料 / 大人 300 円

高校・大学生 200 円

小中学生 100 円

○门票 / 成人 300 日元

高中生・大学生 200 日元

中小学生 100 日元

○休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)、お盆、年末年始(冬期不定休有り)

○休息日 毎星期一(星期一为法定节假日时改为第二天)、盂兰盆节、年末年始(另外，冬季有不定休息日)

○お問い合わせ / 0749-23-5268(個人所有)

○咨询电话 / 0749-23-5268(属于私人电话)

龍潭寺(りょうたんじ) 龙潭寺

佐和山の麓にある井伊家先祖の菩提寺で、井伊直弼ゆかり茶室や松尾芭蕉の高弟・森川許六が描いた襷絵が残っています。また、庭の寺としても有名で、中でも白砂に 48 個の石を配した「ふだらくの庭」は名庭として名高い。

龙潭寺位于佐和山遗址，是供奉井伊家先祖的菩提寺。龙潭寺中至今仍保存着井伊直弼使用过的茶

室、还收藏着松尾芭蕉的弟子-森川许六所画的屏风等重要文化遗产。龙潭寺中的石庭也非常有名，它是用 48 块白色的石头铺制而成的庭园，所以也被称为「普陀落之庭园」。

○拝観料 / 400 円

○门票 / 400 日元

○拝観時間 / 9:00~17:00

○开放时间 / 9:00~17:00

○お問い合わせ / 0749-22-2777

○咨询电话 / 0749-22-2777

天寧寺(てんねいじ) 天宁寺

城下町を一望できる小高い丘の上であり、十一代藩主・直中が京都の名工に刻ませた木造の五百羅漢で有名。この五百羅漢は、直中が死罪にした腰元親子を弔うため建立したもので、探し求める人の顔が必ずあると言われてています。

天宁寺建于一座可以把彦根城城下町一望无遗的小山上。它以第十一代藩主井伊直中请京都的名匠雕刻的木制的五百罗汉而闻名。这五百罗汉是为了吊唁井伊直中亲自定罪并处死的侍女母子的亡灵而雕刻的（井伊直中后来知道这个侍女所怀的孩子是自己亲生儿子的孩子-也就是自己的孙子，后悔莫及），据说这五百罗汉中必有想找之人的面容。

○拝観料 / 400 円

○门票 / 400 日元

○拝観時間 / 9:00~17:00

○开放时间 / 9:00~17:00

○お問い合わせ / 0749-22-5313

○咨询电话 / 0749-22-5313

佐和山 佐和山遗址

関ヶ原の合戦で敗れた石田三成の佐和山城があった。石垣など当時を偲ぶものは、ほとんど残っていないが、山頂から彦根城や琵琶湖等が一望できます。

なお、当山は私有地でありますので、ごみ持ち帰り等のマナーの厳守はもちろんのこと、所有者の意向があれば従っていただきますようお願いいたします。また、登山道の一部において、所有者のご都合により一部通行ができない箇所がありますのでご注意ください。

佐和山城是关之原战役中战败的石田三成的居城。（佐和山城的建筑物的一部分被迁移到彦根城，其他的全都被废弃掉了）现在的佐和山城几乎没有剩下什么可以怀念当时的建筑物了。从佐和山的山顶可以眺望到彦根城、琵琶湖等旅游胜地。

但是，由于佐和山是个人的私有土地，游人须遵守不要乱扔垃圾等规定，并请尊重所有者的意向。另外请注意，由于佐和山所有者个人的原因，有一些山路是禁止通行的，请游人不要擅自进入。

スミス記念堂 史密斯纪念馆

スミス記念堂(須美壽記念禮拜堂)は、米国人牧師で彦根高等商業学校(現、滋賀大学経済学部)の英語教師でもあったパーシー・アルメリン・スミス氏が、昭和6年(1931年)に彦根城の中堀に面した城町に建立した礼拝堂。瓦屋根の寺社風の外観、細部にキリスト教ゆかりの文様や金具を施す和風教会堂で、彦根の近代化遺産のひとつです。

平成8年(1996年)、道路拡幅工事のため取り壊されるところ、市民有志でつくる「スミス記念堂を彦根に保存する会」が譲り受け、平成15年(2003年)に設立された「特定非営利活動法人スミス会議」が、平成19年(2007年)3月に当時より東の堀端に解体保存されていた部材を使い、再築復元したもの。

平成19年(2007年)9月に国の登録有形文化財(建造物)となった。

史密斯纪念馆(须美寿纪念礼拜堂)是昭和6年(1931年)由美国人牧师兼彦根高等商业学校(现在的滋贺大学经济部)的英语教师伯希·A·史密斯在彦根城的城町所建立的礼拜堂。它是拥有寺院风格的外观，在细节上具有着基督教传统样式的日本礼教堂。史密斯纪念馆被认定为彦根近代化文化遗产之一。

平成8年(1996年)，由于道路扩建工程而面临拆毁，但是通过市民的保护活动「史密斯纪念馆保存活动会」，而被解体保存下来。平成15年(2003年)开设了「NPO 特定非营利活动法人史密斯

会议」，并于平成 19 年 3 月（2007 年 3 月）开始竣工，在当时的史密斯纪念堂的稍微往东的地方，用解体保存下来的材料，重建其美丽的身姿。

平成 19 年 9 月（2007 年 9 月），史密斯纪念堂被登录为国家的有形（建筑物）文化财产。

○開館日／土曜日・日曜日

○開館日期／星期六・星期日

○開館時間／10 時～16 時

○開館時間／10: 00～16: 00

○所在地: 彦根市本町 3 丁目

○住址: 彦根市本町 3 丁目

○問い合わせ／特定非営利活動法人スミス会議事務局(彦根市本町 2 丁目 3-3)

TEL: 0749-24-8781

FAX: 0749-27-2621

○問詢電話／NPO 特定非営利活動法人史密斯会议事務局(彦根市本町 2 丁目 3-3)

TEL: 0749-24-8781

FAX: 0749-27-2621

・[特定非営利活動法人スミス会議のホームページはこちら](http://www.smith-meeting.com)
(リンク先: <http://www.smith-meeting.com>)

- ・ NPO 特定非営利活動法人史密斯会议的主页请点击此处进行查询
- ・ 网址: : <http://www.smith-meeting.com>)

中山道鳥居本宿 中山道鳥居本宿

中山道 63 番目の宿場町で、江戸時代から続く赤玉神教丸の有川家をはじめ旧街道の面影を残す町並みが残っています。

「中山道」：在江户时代，从日本桥（东京）出发，途经上野・信浓・美浓等地点，在草津的东海道汇合，最后到达京都的这段路程，叫做中山道。在这段路程中，共有驿站 69 处。

中山道的第 63 处驿站-宿场町，有从江户时代就很有名的出售赤玉神教丸（红玉神教丸-肠胃药）的有川家（店铺名）。中山道鸟居本宿至今保有着江户时代旧街道的风韵。

中山道高宮宿 中山道高宮宿

中山道の宿場であるとともに、多賀大社の門前町としての役割を果たしてきた高宮宿。昔ながらの提灯屋や路地などに旧街道の面影が残っています。

「中山道」：在江户时代，从日本桥（东京）出发，途经上野・信浓・美浓等地点，在草津的东海道汇合，最后到达京都的这段路程，叫做中山道。在这段路程中，共有驿站 69 处。

高宮宿是中山道的 69 处驿站之一。由于高宮宿（驿站）位于著名的多賀大神社门前的街道之上，所以前来投宿的旅人络绎不绝。保存下来的灯笼店和道路等至今可以找到当时旧街道的影子。

宗安寺(そうあんじ) 宗安寺

通称「赤門の寺」と呼ばれるこの寺は、朱塗りの山門が目印。この寺は、幕府へ派遣された朝鮮通信使高官の宿泊所でした。寺内には、李朝高官といわれる肖像画が残っています。小堀遠州流の「白露の庭」も見どころです。

宗安寺又被称为「红门寺」。它那被漆成赤红色的大门异常醒目、气派。宗安寺曾经是被派往幕府的朝鲜通信使高官的住宿之处。在寺院中，至今保存着据说是李朝高官的肖像画。著名的造园家小堀远州派的「白露庭园」，也是很值得一看的。

○拝観料 / 200 円(庭園)

○入館门票 / 200 日元(庭園)

○お問い合わせ / 0749-22-0801

○咨询电话 / 0749-22-0801

大洞弁財天 長寿院(おおほらべんざいてん ちょうじゅいん) 大洞弁財天 長寿院

龍潭寺の北隣。急な石段を上り、山門を過ぎて振り返ると、門を額縁にして彦根城が美しく見えます。本殿は甲良大工による権現造りで、「彦根日光」とも呼ばれています。欄間の眠り猫や象の彫刻も圧巻です。

大洞弁財天位于龙潭寺的北部。来到大洞弁財天，走在陡险的石阶上，穿过山门回头展望，山门就好像是相框一样，把彦根城衬托得异常美丽。正殿是以甲良匠师的权现造（日本神社建筑样式的一种）的建筑样式建造而成，所以大洞弁財天也被称为「彦根日光」。建筑物栏间的猫、象等动物的精美雕刻也很有观赏价值。

○拝観自由 ○お問い合わせ / 0749-22-2617

○参拜自由，无需门票 ○咨询电话 / 0749-22-2617

長久寺(ちょうきゅうじ) 長久寺

「一枚、二枚・・・」の下りでお馴染み怪談「番町皿屋敷」のモデルは実は彦根藩での出来事。彦根藩士・孕石政之進のもとで女中奉公していたお菊は、恋人・政之進の気持ちを確かめるために家宝の皿を割り、家宝の皿か自分への愛情か、どちらが深いかを試したお菊。自分の心を疑われたことをした恋人は、残りの皿九枚を刀の柄頭でうち割り、お菊を切ってしまいます。心のすれ違いが生んだ悲しい結末でした。この割れた皿は継ぎ合わされてお菊の菩提寺に供養のために納められました。現在、長久寺にお菊の墓とともに六枚の皿が現存しています。

在民间广为流传的以「一个盘子、二个盘子・・・」为开头的传说「番町皿屋敷」的原型是在彦根藩发生的事件。服侍于彦根藩士・孕石政之进左右的女侍从-菊（也同时是孕石政之进的恋人），为了试探恋人政之进对自己的爱情，于是将政之进的家宝-盘子打碎（家宝的盘子共有10个，菊打碎了其中的一个），想知道在政之进的心中是自己重要，还是家宝重要。政之进得知恋人菊为了试探自己的感情而打碎了盘子，一气之下，用刀柄将其余的九个盘子全部打碎，并杀了自己的恋人菊。由于对感情的不信任，一段美好的感情却酿成了无法挽回的悲剧。

后人将那些打碎的盘子进行复原，供奉着菊的亡灵。现在，在菊的菩提寺-（长久寺），仍然保存着菊的墓与打碎的盘子（6个）。

○お問い合わせ / 0749-22-0914

○咨询电话 / 0749-22-0914

名水百選・十王村の水 名水百選・十王村の水

西今町の十字路の角、家並が続く中に小さな池があり、中央には六角形の地藏堂がまつられています。この池に湧き出る水は、すでに元禄年間に「湖東三名水の一つ」として知られていました(他は五箇荘清水ヶ鼻の水、醒井の水)。

その昔、遠い村に嫁いだ娘の母乳の出が悪く、故郷の十王村のこの水を汲んできてもらい飲んだところ、たちどころにお乳の出が良くなり、そのおかげで赤ん坊はすくすくと育ったとい

います。

今も地藏は、母乳の神様として親しまれています。

在西今町十字路口拐角处的小巷中有一个小水池，在水池的中央供奉着一座六角形的地藏堂（小土地庙）。从这个水池中涌出来的水，在元禄年间（17 世纪末至 18 世纪初）就已经是广为人知的「湖东三大名水之一」了。（另外两个有名的水分别是五个荘清水之鼻的水和醒井的水）。

在很久很久以前，有一个嫁到远方村庄的姑娘，在生完孩子之后却不出母乳。这个姑娘喝了这个从故乡十王村带过来的池水之后，母乳就出来了。据说多亏了这个水，才让婴儿得以茁壮的成长。这个小土地庙至今被当作母乳的神来供奉着。